

新潟大学節電実行計画〔H27'冬期〕

平成27年11月27日
新 潟 大 学

はじめに

新潟大学では、従来からエネルギー消費の多い事業所として、使用の抑制に取り組み、平成22年度からは温室効果ガスの削減を念頭に省エネルギー等に取り組んできています。特に東日本大震災発生以降は、さらなる実効性を求めて夏期及び冬期の節電実行計画を策定し、節電対策に取り組んで成果をあげて参りました。

今冬は、政府から数値目標を伴った節電を要請されていないものの、地域社会の構成員である大学として、これまでの実績を踏まえた節電に努め、光熱水料等の抑制にも考慮し、より一層の取り組みをお願いいたします。

1. 基本方針

新潟大学は、教育研究及び医療活動に最大限配慮しつつ、キャンパスライフスタイルを見直した上で、学生、教職員一丸となって、計画的なピークカット・ピークシフト及び温室効果ガスの削減、並びにエネルギー消費コストの削減を目的とした電力使用の抑制（以下、「節電」という。）に自ら率先して取り組むこととする。

この節電を定着させることで、省エネルギーの持続的な取り組みの一環とする。

なお、節電の取り組みにあたっては、学生、教職員等の健康や安全管理に十分留意する。

2. 取り組みの対象

本学の全てのキャンパス

3. 取り組みの実施期間

平成27年12月1日～平成28年3月31日

4. 節電数値目標

夏期に実施された節電により、本年度上半期の電力使用量は前年度を維持している状況である。

各部局等においては、実績等を踏まえ積極的な取り組みを行うものとする。

(1) 電力使用量 大学全体として 1,615万kwh

(H26年度比 1%削減)

H26実績：五十嵐地区：525万kwh 旭町地区：1,054万kwh

保健学科：25万kwh 附属新潟学校：17万kwh

附属長岡学校園：10万kwh

(2) 最大使用電力 大学全体として 10,377kW

(H26年度使用電力を超過しない)

H26実績：五十嵐地区：4,125kW 旭町地区：5,640kW 保健学科：236kW
附属新潟学校：240kW 附属長岡学校園：136kW

5. 節電実行概要

(1) キャンパスライフスタイルを見直し実施してきた節電の取組みの継続

東日本大震災発生以降、キャンパスライフスタイルを見直し実施してきた節電の取組みを活かしながら、冬のキャンパスライフスタイルを改めて見直し、継続して節電に取り組むこととする。(下記6.参照)

なお、冬期は日射量が低下することから、安全確保や防犯について配慮した照明の点灯(消灯)を行う。

(2) 学生、教職員一丸で取り組む空調設備使用への対応

教育研究及び医療活動への影響を最小限に抑える観点から、利用者の体調管理に十分配慮した上で節電に取り組むこととし、空調区分^{※1}ごと(空調区分Aは、必要とされる室温、B、Cは、室温20℃)の室温管理^{※2}を徹底した上で空調設備を使用することとする。

また、室の利用人数に応じた部分的な稼働など、効率的な使用に心掛け、節電に寄与するものとする。

- ※1 空調区分：室ごとに空調設備の運転期間及び室温を定めた区分で、原則、出入り口付近にシールを貼付して示したもの(平成22年新潟大学施設環境委員会決定)
- A：通年で空調を運転しなければならない部屋(恒温・恒湿室、低温室等)
 - B：外気条件等により必要に応じ運転する部屋(図書館、保健管理センター等)
 - C：標準空調室(教員・学生研究室、事務室等)

※2 室温管理：空調機の設定温度ではなく、温度計や温度計シールにより行う

6. 具体の節電対策

本学が取り組む具体の節電対策は、次のとおりとする。

なお、各部局においては、この計画を踏まえ、節電効果を高めるための更なる対策を加え、取り組むこととする。

- 主に大学として取り組むこと
- ★主に各部局等が組織として取り組むこと
- ◆主に学生・教職員等が自ら取り組むこと

(1) 節電対策の周知

- ・ホームページ、ポスター、館内放送等によって、節電実行計画期間中であることを学内外に広く周知し理解を得るとともに、節電の取組みを推進する。

<●★>

(2) 教育研究等

教育・研究等に最大限配慮しつつ、以下の取組みを行う。

- ・実験装置の運転方法の見直しを行う等、効率の良い運転を行う。
(実験開始時間に合わせた予熱運転時間の短縮、設定温度の見直しなど) <★◆>
- ・使用していない又は使用頻度の低い実験機器の電源プラグを抜くこと等により、待機電力の削減を行う。 <★◆>
- ・実験用製氷機等の停止又は共同使用により稼働台数を抑制する。 <★◆>
- ・連続使用する機器の使用時間変更や実験時間変更によるピークシフトを行う。 <★◆>
- ・研究室や実験室等の就業時間外に電気使用を伴う活動について、時間短縮をはじめとする節電に配慮する。 <★◆>

(3) O A 機器等

- ・短時間パソコンを使用しない場合、小まめにディスプレイを消す。 <◆>
- ・長時間パソコンを使用しない場合（2時間以上席を離れる時など）は、シャットダウンする。 <◆>
- ・パソコンのディスプレイの輝度調整を行う。 <◆>
- ・パソコンのディスプレイ自動オフ時間の設定を短縮する。（ディスプレイ消し忘れ防止） <◆>
- ・プリンター、コピー機の共用化を図り稼働台数を抑制する。また、待機中は節電モードに切り替える。 <★◆>

(4) 照明

- ・不要な照明の消灯を徹底するとともに、自然光が充分に入る諸室の昼休み、休憩時間は、可能な限りの消灯を行う。 <★◆>
- ・不必要な蛍光灯は間引いて点灯する。その際、作業面の明るさが不足する場合には、卓上照明を利用する。 <★◆>
- ・窓周辺の棚等を整理し、窓からの自然光の有効利用を図る。 <★◆>
- ・一般的な照度のコーナーと一部消灯した「節電コーナー」に区分するなど、使用方法を工夫して節電に取り組む。 <★>
- ・消灯可能な自動販売機の照明については消灯を要請する。 <●>

(5) 空調

- ・空調区分による室温管理を徹底する。また、部屋の利用人数に応じた部分的な稼働など、効率的な使用を心掛ける。 <★◆>
- ・ブラインド、カーテンを適切に調整し、自然エネルギーの活用と保温（熱の放出を防ぐ）を心掛ける。 <★◆>
- ・ウォームビズ（暖房時の室温が 20℃でも快適な服装）の実践を徹底する。 <★◆>
- ・空調設備の室温管理は、空調機の設定温度ではなく、温度計や温度計シールにより行う。また、室内温度のばらつきに留意し、扇風機等を活用する。 <★◆>
- ・空調設備の運転効率を高めるため、フィルター清掃を適宜行う。 <★◆>
- ・空調使用時に温風の流れを妨げる物品等の配置を工夫し、空調効果を高める。 <★◆>

(6) エレベーター等

- ・エレベーターは、設置台数や配置に応じて、一部使用を停止する。〈★〉
- ・自動扉は、各建物の出入口の風除室として使用している場所等を除き、一部又は全ての自動扉の使用を停止する。〈★〉

(7) その他

- ・電気ポット、コーヒーマーカー、電気給湯器を使用しない。又は共用化を図り、使用台数を抑制する。〈★◆〉
- ・冷蔵庫、電子レンジの共用化を図り、使用台数を抑制する。〈★◆〉
- ・トイレの暖房便座、温水洗浄、ジェットタオルの使用停止、制限あるいは節電設定する。〈★〉
- ・入居売店等への節電の協力要請を行う。〈★〉
- ・年末年始の休業時には不要な電気機器のコンセントプラグを抜くなどにより、待機電力の削減に努める。〈★◆〉

7. その他の取組み等

- ・学生、教職員等に向けて、メールや電子掲示板を利用し、積極的に情報発信を行う。
- ・電力使用状況等について、ホームページ等により「見える化」を継続し、節電モチベーションの向上に努める。
- ・節電の取組み状況を確認する。
- ・電力使用が増大すると見込まれる場合は、部局等に更なる節電要請を行うものとし、必要に応じて、自家発電設備を活用した、ピークカットを行う。
- ・新潟大学のキャンパスは、冬期休業期間であっても、学外者の利用があることから、本計画による取組みについて、理解と協力を求める。
- ・附属小学校・中学校、特別支援学校、幼稚園において、児童・生徒への「節電」に関する教育に取り組む。
- ・学生、教職員等の各家庭での節電活動として、政府が示した「家庭の節電メニュー」を参考とした取組みを推奨する。
- ・実験装置や空調機、パソコン、家電製品等の新規購入や更新の際には、エネルギー効率の高い機器の採用に配慮する。

8. フォローアップ

本計画については、本学の今後の節電状況や社会情勢等の変化に応じ、施設環境委員会において、対策の追加、見直しの検討、決定を行い、学生、教職員等へ周知することとする。

また、本計画の実施期間終了後、結果等について確認を行うものとする。